

聖書日課 『からし種』 2023.1.8—2023.1.15

| | |
|--|--|
| <p>1月8日 (日)</p> <p>申命記 15章</p> | <p>「あなたの神、主が与えられる土地で、どこかの町に貧しい同胞が一人でもいるならば...」(7節)。「主が与えられる地」とはどこか、「同胞」とは誰か。わたしたちに神の国を約束して十字架に向かわれる主イエスが最後に語られたたとえを思い出す。「同胞ではないと思ってあなたが見捨てた相手が、このわたしだったのだ!」というマタイ25:44~45が迫ってくる。</p> |
| <p>9日 (月)</p> <p>申命記 16章</p> | <p>「ただ正しいことのみを追求しなさい。そうすれば命を得、あなたの神、主が与えられる土地を得ることができる」(20節)。「何よりもまず、神の国と神の義を求めなさい。そうすれば、これらのものはみな加えて与えられる」(マタイ6:33)。自分の国、自分の義を「正しいこと」として追求することのないように、主から聴く耳、友から聴く耳を持ちたい。</p> |
| <p>10日 (火)</p> <p>申命記 17章</p> | <p>「王は...馬を増やすために、民をエジプトへ送り返すことがあってはならない。『あなたたちは二度とこの道に戻ってはならない』と主は言われた」(16節)。「二度と戻らない」と誓ったはずの戦火の中へ戻ろうとするかのような今の日本と世界。「王の系統を引く祭司」(1ペテロ2:9)であるわたしたちが、人々を戦場に送り返さないためにできることは?</p> |
| <p>11日 (水)</p> <p>申命記 18章</p> | <p>「あなたは、あなたの神、主と共にあって全き者でなければならぬ」(13節)。占いや呪術を求め、他者の命を奪ってまで安心を得ようとする弱い心に、「主と共にあって」全き者であれと呼びかけられている。「全き者」とは、自分を完全に主に明け渡す者のことではないか。ゲッセマネの祈りの中で御自分を父の御心に完全に明け渡されたイエスのように。</p> |

聖書日課 『からし種』 2023.1.8—2023.1.15

| | |
|---|---|
| <p>12日 (木)</p> <p>申命記 19章</p> | <p>「あなたの神、主があなたの嗣業として与えられる土地に罪なき者の血が流され、その責任があなたに及ぶことがないようにするためである」(10節)。律法は人を裁くが、それでも正しく裁くようにつとめよと教える。律法から解放されたはずのわたしたちのほうか、むしろ誰かを悪者に仕立てたり、何かで責任をとらせることに躍起になってはいないだろうか。</p> |
| <p>13日 (金)</p> <p>申命記 20章</p> | <p>「心ひるむな。恐れるな。慌てるな。彼らの前にうろたえるな。あなたたちの神、主が共に進み、敵と戦って勝利を賜るからである」(3-4節)。この言葉をきいて育ったはずのパウロが「わたしたちの戦いは、血肉を相手にするものではない」(エフェソ6:12)と語るまでに変えられた。十字架の主イエスの愛を知れば、わたしたちもきっと戦争をやめることができる。</p> |
| <p>14日 (土)</p> <p>申命記 21章</p> | <p>「もし彼女があなたの気に入らなくなった場合、彼女の意のままに去らせなければならない。決して金で売ってはならない」(14節)。去れというのも勝手な話だが、こんな形でも律法にあるということは、実際に金で売られた捕虜の女性たちの訴えがあったからではないか？ 小さな訴え、小さな祈りでも、聴いてくださっている主に希望を持って続けたい。</p> |
| <p>1月15日 (日)</p> <p>申命記 22章</p> | <p>「同胞の牛、または羊が迷っているのを見て、見ない振りをしてはならない。必ず同胞のもとに連れ帰さねばならない」(1節)。「見て見ぬ振り」をして通り過ぎるか、それとも「手を差し伸べる」のか。私たちはしばしば自分の小さな愛を揺さぶられる経験をする。「ねばならない戒め」としてではなく、主イエスの愛に触れた「感謝の応答」として行動できますように。</p> |